

授業科目名	国際経済事情(200065)		
時間割名	国際経済事情(42101)		
時間割担当	河合和男		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	木・2		

授業の目標・概要

現代の国際社会では世界各国の経済的な結びつきが強まり、貿易を通じた商品・サービスの取引や他国への投資が増大するとともに、国境を越えた資本や労働力の移動が活発化している。本講義では、国際経済を読み解く際に必要な金融・経済用語を解説しながら、世界経済の仕組みや現状について概観する。特にアジアや欧米など、日本と関わりの深い地域に関して、各国の経済発展の推移や現在の経済政策などを紹介し、日本経済への影響について考察する。

学習の到達目標

まず、第二次世界大戦後の国際経済体制の構造とその崩壊過程、ならびに現代世界経済の諸相の一例として取り上げる南北問題やアジアでのF T A (自由貿易協定)による地域連携・統合の概要について理解し、さらに東アジアの経済発展と域内分業についての認識を深めることを目標とする。

授業方法・形式

プリントを用いて講義する。配布するプリントには筆記部分があり、授業中にノートしてもらう。

授業計画

- 戦後の国際経済体制
- 第 1回 (1) I M F ・ G A T T体制の成立
- 第 2回 (2) I M F ・ G A T T体制の構造
- 第 3回 (3) I M F ・ G A T T体制の崩壊
- 現代世界経済の諸相
- 第 4回 (1)南北問題(1)
- 第 5回 南北問題(2)
- 第 6回 (2)W T OとアジアのF T A (1)
- 第 7回 W T OとアジアのF T A (2)
- 第 8回 小テスト
- 東アジアの経済発展
- 第 9回 (1)世界経済のなかの東アジア
- 第10回 (2)中国の対外開放政策と経済発展(1)
- 第11回 中国の対外開放政策と経済発展(2)
- 第12回 (3)東アジア工業化論
- 第13回 (4)東アジア域内分業の新展開
- 第14回 小テスト
- 第15回 まとめ
- (講義の進行状況などの理由によって授業計画を変更する場合がある)

成績評価の基準

定期試験50%と平常点(小テストを含む)50%を基準に評価する。なお、定期試験は小テストのなかから出題する。

授業時間外の課題

前回のプリントの読み直しなど、毎回必ず復習をしておくこと。また適宜紹介する参考文献を図書館で借りて読むなどして、講義内容の理解をさらに深めておくこと。

メッセージ

毎回、出席確認を行う予定である。疑問点があれば必ず質問し、講義内容の理解に務めてほしい。授業の理解度を深めるために、小テスト(プリント類持ち込み可)を2回ほど実施する予定である。

教材・教科書

なし

参考書

講義中に適宜紹介する(図書館を積極的に利用すること)